

資 料

平成 18 年度事業計画

2006 年 4 月 1 日

財団法人日本セーリング連盟

平成 18 年 3 月 19 日

財団法人 日本セーリング連盟
平成 18 年度事業計画

平成 18 年度の実業計画の重点項目

セーリング人口、J S A F メンバー増大を目的に下記事業を積極的に展開する。

- 1 . 指定管理者制度の導入
- 2 . 普及委員会事業の見直し
- 3 . B G 財団海洋センター支援事業の積極的展開
- 4 . 全日本選手権大会支援（環境キャンペーン）
- 5 . ジュニアヨットクラブ活性化
- 6 . スポーツ拠点づくり推進事業
- 7 . 見るセーリング（国体レース海面）
- 8 . その他

総務委員会（委員長：中山明）

- 1 . 加盟団体、特別加盟団体の義務と権利内容の整備
 - （ 1 ）加盟する団体との委託業務契約の締結推進により、組織の業務分担を明確化し、各団体の運営管理状況の把握と情報交換を行う。
 - （ 2 ）加盟団体、特別加盟団体の加盟要件の見直し及び団体の権利と義務などに関連する公平性や休眠、退会、罰則事項について検討する。
 - （ 3 ）加盟団体等に所属するフリート、クラブ、学校、企業の団体等の権利義務を検討する。
- 2 . 諸規程の整備
 - （ 1 ）理事選出方法及び規程の再検討を行う。
 - （ 2 ）委員会業務に関する事項を連盟運営規則へ明記して整備する。
 - （ 3 ）施行済み規程の運用状況の点検と遵守の徹底。
- 3 . 業務合理化の推進
 - （ 1 ）加盟する団体との事務処理方法の I T 化を促進するよう、I T 委員会と協調して要件整理する。
 - （ 2 ）事務局内の事務処理の I T 化を促進し高能率化を目指す。
 - （ 3 ）各委員会業務と事務局業務の分担を整理、明確化し堅実で能率の良い運営を目指す。
 - （ 4 ）保険制度の内容を検討し加入の促進を図る。
- 4 . 表彰小委員会活動の充実
 - （ 1 ）連盟表彰の分り易い運用基準を作成する様に努める。
 - （ 2 ）外部団体より表彰された会員の表彰記録を整備し組織活性化に活用する。

外部への表彰機会を逃さず対応し、セーリング活動を通じた社会的貢献の成果を PR する様に努める。

会計委員会（委員長：鈴木保夫）

1. 各事業の会計報告が速やかにできるようにする。
2. 予算執行の適正な管理をする。
3. 新公益法人会計への対応をする。

財務委員会（委員長：石橋國雄）

1. 健全な財政確保を目的とする。
2. 募金及び協賛者確保のため、各方面からの協力者を開拓する。

国際委員会（委員長：戸張房子）

1. 国際セーリング連盟（ISAF）へのカウンスル、委員の派遣
ミッドイヤーミーティング
2006. 5. 4～8 ベルリン（ドイツ）
出席予定者 大谷たかを
年次総会
2006.11. 2～12 ヘルシンキ（フィンランド）
出席予定者 大谷たかを、柴沼克巳、小林昇、戸張房子
2. ORC リミテッド年次総会への kongress・メンバーの派遣
2006.11. 2～12 ヘルシンキ（フィンランド）
出席予定者 山崎達光、小林昇
3. アジアセーリング連盟会議への JSAF 役員派遣
2006.3. 24 ドーハ（カタール）
出席予定者 未定
4. 国際的な情報収集およびその情報の迅速な提供
5. 日本から海外への情報発信
6. 競技力向上委員会と協力し、日本でのセーリング普及を推進するために ISAF が始めたコネクト・トゥ・セイリング・プロジェクトおよびユース・セーリング・プロジェクトの導入を進める
7. オリンピック特別委員会と協力し、オリンピックセーラー育成、ゴールドプラン実現のための国際情報収集・提供。海外 MNA との友好関係を築き、交流を促進。
8. ルール委員会、レース委員会と協力してルールおよびレースマネジメントについての情報収集、並びに IJ, IU, IRO, IM の育成をサポート
9. レディース委員会と協力し、日本およびアジア女子セーリング発展のための情報を提

供。また ISAF ウィメンズ・セーリング委員会が第 1 回から関与している世界女性スポーツ会議への JSAF 女性委員派遣の援助 (2006 年 5 月熊本で開催)

広報委員会 (委員長：大山俊哉)

1. 「J - SAILING」の編集・発行
 - (1) 昨年度、改訂した「J - SAILING」を年間 6 回発行とする。
 - (2) 引き続き、全 32 ページ、カラーとする。
 - (3) 引き続き、広報委員会にて自主編集とする。
 - (4) 発送は「宅配方式」を継続する。
2. ホームページの充実・活用
 - (1) 引き続き、充実を図り、会員への情報提供・交流の場として活用していく。
 - (2) JSAF として必要な情報と、広報的に考えて必要な情報の充実を図る。
3. 報道機関に対する広報対応
 - (1) 報道機関の「セーリング担当者リスト」の改訂・活用。
 - (2) 報道機関に対する J-SAILING の送付。
 - (3) 報道機関とのコミュニケーション・親交を図る。
 - (4) 記者会見等の開催。
 - (5) 広報資料・キットの配布。
4. 会員への広報活動・メリット還元 (J-SAILING / HP 以外)
5. セーリング全体の認知・イメージアップのための広報活動
 - (1) メディアへの積極露出
 - (2) CM 等への積極露出
 - (3) 一般客が多いエリアでのレース観戦・レース告知への協力
 - (4) 国体・プレ国体等の報道関連協力

事業開発委員会 (委員長：平賀威)

1. 委託販売制度の拡大
 - 各加盟団体、特別加盟団体、各水域ヨットクラブなど
 - 各マリナーショップ、業者 (アリカ、ノースセールなど)
2. ショップの出店
 - 兵庫国体会場、東京ボートショウ会場、加盟団体主催レース表彰式・パーティ会場、加盟団体イベント会場、JSAF 講習会会場、葉山ニッポンカップ、ジャパンカップ、JSAF 新年会、関東ヨットマンズクラブパーティ会場、その他レースイベント会場など
3. JSAF ロゴ入り商品の開発
 - トレーナー、ポロシャツ、T - シャツ、ハイクインナー、キャップ、タオル、バンダナ、トートバッグ、サングラス、携帯用防水ケース、アクセサリー、タンブラー、記念

- 品、賞品、シーズズグリーティングカードなど
4. ロイヤリティビジネス（J S A F ロゴマークの使用許諾権）の検討
 5. J-セーリングとのジョイントによるグッズの通信販売
 6. ネットショッピングの研究（販売、配達、代金回収）
 7. イベントの開催（企画、運営について検討する）
 8. 2006年版新型カレンダーの製作（舵社とのジョイント）
 9. 月次商品別売上実績、月末在庫の確認および滞留在庫の減額を図る
エンサイン（大、小）、クラブバージ、ワッペン、ISS グッズ（ポロシャツ、キャップ、シール）

環境委員会（委員長：荒居達雄）

1. エコフラッグの貸し出し
レース本部等での掲揚を依頼。
2. キャンペーンステッカーの貼付
環境キャンペーン賛同レースに、艇体にステッカーを貼っていただく。
3. 横断幕の貸し出し
17年度終わりに、出来上がったバナー（横断幕）2枚を、各レースとの調整の上、貸し出す。
4. マークブイへのステッカーの貼付
キャンペーンステッカーを利用して、マークブイに貼っていただく。

レース統括委員会（委員長：名方俊介）

1. レースオフィサー認定（試験）講習会（更新を含む）の実施。
2. レースオフィサー等有資格者のためのレース運営セミナーの開催。
3. 外洋艇レースオフィサー特別認定講習会の実施（外洋統括委員会と共同で）。
4. レース・マネージメント・マニュアルの改正・出版。
5. レース・オフィサー・トレーニングキットの改正と充実（CRO、NRO、およびARO）
6. 競技大会へのレース・オフィサーの起用システムと支援体制を確立。
7. ヤードスティックナンバー（2006年版）の発表。
8. チームレースの普及、支援活動。
9. 管理水面における安全対策及び危機管理マニュアル等の充実。
10. レース運営の省力化、記録・成績表作成作業の効率化及び近代化の研究。
11. J S A F 共同主催・主催・公認レースに対する指導・支援体制の構築。
12. その他

レースオフィサー委員会（委員長：長塚奉司）

1. レースオフィサー資格制度の維持、管理。
(資格更新等の検討、レースアドバイザー制度の確立を含む。)
2. 更新講習会、認定講習会、試験の計画と実施(講師の養成を含む)。
3. レースオフィサー等有資格者のためのレース運営関連セミナーの計画と実施。
4. 外洋艇レースオフィサー特別認定講習会の実施と資格管理。
(外洋統括委員会と共同で)。
5. レースオフィサー・トレーニングキットの改訂、充実と管理(CRO、ARO 及び NRO)。
6. レース・マネージメント・マニュアルの改訂・出版。
(レースマネージメント委員会と共同で)
7. 競技大会へのレースオフィサーの起用システムと支援体制の確立。
8. ISAF インターナショナル・レースオフィサーに関する情報の管理等。
9. その他

チームレース委員会(委員長:末木創造)

1. レース運営全般の調査、研究。(レースマネージメント委員会と連携)
2. チームレースの指導育成と普及。
3. 担当レースオフィサーの育成。
4. 全日本大会・帆走指示書ガイドの作成。
5. その他

マッチレース委員会(委員長:一木正治)

1. レース運営全般の調査、研究、普及。
(1) 横浜ベイサイドマリーナにてマッチレースを開催。(ヤマハ26を使用)
(2) 上記を含めてマッチレース・セミナーを開催(JYMA主催)
2. マッチレース・マネジネット・マニュアルの完成と充実。
3. 担当レースオフィサーの育成。
HMYC/NTSとの協力の下に、マッチレース運営セミナーの実施。(2回計画)
4. 全日本大会・帆走指示書の雛形作成。
5. JSAFと当該協会等の連絡、調整。
6. その他

レースマネージメント委員会(委員長:大原博実)

目標: 広告及び主催に関して、ルールに基づいたレースが全国展開されることを目標とする。

1. 重点的に取組み事項

- (1) JSAF 共同主催・主催・公認レースに対する指導・支援

- (2) 広告規定（主催者広告と個人広告）に関しての手引書の作成および適切な広告運用の啓蒙
- (3) 全日本大会等の JSAF 公認審査について、事前審査システムの制度化
- (4) 記録作業の効率化と近代化、成績表作成ソフトの充実とその管理、運用
- (5) レースオフィサー委員会等と連携して、改訂ルールに基づくレース・マネジメント・マニュアルの研究
- (6) 広告カテゴリーを中心に各クラスルールの収集整理、研究
- (7) レーシングシグナル補追版について研究

2. 継続的取組み事項

- (1) 管理水面における安全対策、および危機管理マニュアル等の充実
- (2) レース公示、帆走指示書、大会運営マニュアルの研究
- (3) ヤードスティック・ナンバーの調査、研究、普及
- (4) ISAF に対する JSAF レース委員会からの質問及び提言
- (5) ホームページ、J-Sailing 掲載記事、ホームページ Q&A 掲載用回答の作成

ルール委員会（委員長：川北達也）

1. ルール関連資料邦訳発行

- (1) 目的：スポーツ競技団体として根幹になる ISAF の競技規則および規定の国内会員への展開をタイムリーに実施する。
- (2) 現状：昨年の RRS 改定にともなう CaseBook の発行が遅れている。CaseBook/CallBook は、RRS の正式解釈として発行されている。また、11 月総会で一部 RRS ケースやコールが修正になった。毎年改定される ISAF 規程についても翻訳の見直しが必要。
- (3) 実施内容：邦訳版ケースブックの発行、コールブックの改定、ISAF 規程の改定 <冊子の作成および WebUP >

2. ルール関連書邦訳（ジャッジマニュアル/アンパイアマニュアル）

- (1) 目的：ジャッジマニュアル/アンパイアマニュアルはジャッジ/アンパイアのレベル統一
- (2) 現状：新ルール適用になってからの改訂版を発行予定
- (3) 実施内容：ISAF 発行に合わせて翻訳版を発行販売

3. 国内 IU/IJ 育成支援、アジア地区ジャッジアンパイア養成支援

- (1) 目的：世界で通用するジャッジアンパイアの養成
- (2) 現状：国内の IJ 有資格者 8 名の内訳は 70 代 3 名、60 代 4 名、50 代 1 名と高齢化が進んでおり、若手養成が急務。IU は昨年 1 名に減少したが、若手 1 名の合格あり。
- (3) 実施内容：若手（60 代前）IJ/IU 候補の、海外レースに派遣する渡航補助。ISAF

IU セミナーの招致、日本で開催

- 4 . 各種ルール講習会開催（ナショナルアンパイア認定、A 級ナショナルジャッジ認定/スキルアップ講習会）
 - （ 1 ）目的：国内のジャッジアンパイア養成による競技大会の質の向上
 - （ 2 ）現状：例年、新規ナショナルアンパイア/A 級ジャッジの認定講習会を最低年 1 回開催中。今年度は上告が 4 件提出され、全国大会のレベル向上のために A 級ジャッジに対するスキルアップが急務。
 - （ 3 ） 実施内容/時期：アンパイア認定講習会(6 月)、A 級ジャッジ認定講習会(2 月)、A 級ジャッジ講習会(1 月)
- 5 . JSAF 主催大会へのジャッジ派遣
 - （ 1 ）目的：国内のジャッジアンパイア養成による競技大会の質の向上
 - （ 2 ）現状：国体およびリハーサル大会の派遣は正式なコントロールをしているが、他は競技力向上委員会の調整。
 - （ 3 ）実施内容：国体、リハーサル大会、オリンピックウィーク、ナショナルチーム選考、ジュニアオリンピックへのジャッジ指名
- 6 . JSAF-Web へのルール情報展開
 - （ 1 ）目的：会員との接点を増やし、JSAF の存在価値の向上を図る
 - （ 2 ）現状：ルール委員会ページの作成（ 公示、案内、Q&A などを予定 ）ルール委員会は、従来より独自サーバーにて実施
 - （ 3 ）実施内容：ルール関連情報の掲載
- 7 . B 級ナショナルジャッジ認定業務
 - （ 1 ）目的：国内のジャッジアンパイア養成
 - （ 2 ）現状：新規試験合格者の認定および更新時の要件認定業務
 - （ 3 ）実施内容：各加盟団体から申請者に資格照合と認定証発行送付業務を実施し、認定証を発行する。

ワンデザインクラス計測委員会（委員長：末木創造）

- 1 . 各艇種別協会との関係について
 - （ 1 ）計測制度に関する各艇種別協会の実態調査。（併せて各国 M N A の計測制度体制の実態を調査）
 - （ 2 ）各艇種のクラスルールに基づき、公式計測員等について J S A F と各艇種別協会との関係を調整し、かつ確立する。
- 2 . E R S について
 - （ 1 ）E R S に基づくオフィシャル・メジャー及びイクイップメント・インスペクター資格の制度化。
 - （ 2 ）E R S 講習会の実施。

3. J S A F ワンデザインクラス計測委員会について

- (1) 各艇種別協会及び都道府県連等から計測責任者等を J S A F 委員として推薦して頂き、計測委員会を組織化する。
- (2) I S A F 規定に基づくインターナショナル・メジャー (I ・ M) 候補者の推薦について制度化する (I ・ M 推薦委員会の設置)

競技力向上委員会 (委員長 : 箱守康之)

1. ジュニア・ユース競技力向上事業

(1) 海外派遣事業

- ア. 2006 年度ワールドユース選手権大会派遣
2006 年 7 月 13 日 ~ 21 日 英国 (ウェイマス)
- イ. 470 ジュニアワールド選手権大会派遣
2006 年 7 月 1 日 ~ 9 日 ドイツ (フレンスブルグ)
- ウ. 世界大学選手権大会派遣
2006 年 9 月 10 日 ~ 23 日 ポーランド予定

(2) 国内強化事業

- ア. 2006 年ワールドユース派遣候補選手強化合宿兼代表最終選考
2006 年 4 月 30 日 ~ 5 月 3 日 佐賀県唐津予定
- イ. 2007 年度ユースナショナルチーム認定
2006 年 10 月開催 J S A F オリンピックウィーク、J O C ジュニアオリンピックカップおよび競技力向上委員会、艇種別協会の推薦により決定。
- ウ. 同ナショナルチーム強化合宿
2007 年 3 月 8 日 ~ 12 日 佐賀県唐津予定
2007 年 3 月 17 日 ~ 21 日 静岡県三ヶ日青年の家予定
2007 年 3 月中旬 唐津及び浜名湖で開催予定
- エ. 海外ユースコーチ招聘
上記ウ. 強化合宿時に招聘
- オ. 2006 年度ワールドユース選手権大会派遣選手の強化合宿
2006 年 6 月実施 (予定)

(3) 国内大会およびクリニックの開催

- ア. J S A F オリンピックウィーク
2006 年 10 月 18 日 ~ 22 日 神奈川県江ノ島
- イ. ジュニアオリンピックカップ (J S A F ユースチャンピオンシップ)
2006 年 9 月 16 日 ~ 18 日 佐賀県唐津

(4) ジュニア・ユース有望選手発掘事業 (ゴールドプランの推進)

- ア. 全国高等学校選手権 (インターハイ、ジュニアオリンピックカップ、全日本大

学選手権およびOP全日本選手権大会時に将来性を有する有望選手の発掘を行う。

イ．各年齢層の有望選手データベースの整備（全国対象）

ウ．各水域での一環指導推進の指導者リストの整備（全国8水域）

2．インターナショナルカテゴリーの推進

（1）世界の基準に合致した年齢別カテゴリ（Under15、Under19、Under22、Over22）の推進と国際艇種での合宿、イベントの推進

（2）カテゴリ別トレーニング方法の普及啓発活動

3．指導者マニュアルの完成に伴う指導体制づくり

（1）指導者講習会の実施

2006年度JSAF主要競技会開催時（インターハイ、国体、オリンピックウィーク、OP全日本、全日本インカレ等）に各指導者を対象に上記指導者マニュアルに基づいた一貫指導システム研究会を開催

（2）ゴールドプラン水域指導者研修会の実施

（3）オリンピック特別委員会と連携したNT強化合宿でのエリア指導者研修の実施

4．オリンピックウィークの開催

ジュニアからトップアスリートまでが一堂に会するJSAF主催の国際大会を目標に、競技力向上委員会が主導を持って開催する。

5．医事・科学委員会と連携した医科学サポートの実施

（1）身体成長期のジュニア・ユースに対して以下のサポートを実施

ア．医科学サポート

イ．フィットネスサポート

ウ．トレーニングサポート

エ．栄養サポート

（2）アンチドーピング活動

有望選手発掘事業および地域指導者講習会時にアンチドーピング啓蒙活動を実施

6．その他

競技力向上委員会ホームページの整備と活用促進。

指導者委員会（委員長：柵橋善克）

1．公認指導員養成講習会を開催する。

（1）例年通りの内容とする

2．全国安全指導者会議を開催する。

（1）参加者が積極的に参加できる仕組みを発展させる。

（2）笹川財団、G & G財団、日本舟艇工業会とも連携をとり、より魅力のある会議とする。

3．バッジテストシステムの検討

- (1) ルールの改定に即した試験問題とする。
- (2) 現システムの長所を生かしつつ、セーリングに携わるすべての者が保持することに誇りを持てるようなシステムの構築を検討する。
- (3) バッジの取得をきっかけとして、セーリングの普及が図られ、さらに日本セーリング連盟の会員になることにも誇りをもてるようなシステムとなるよう検討する。

レディース委員会（委員長：倭千鶴子）

1. 「セーリング体験」

- (1) 本年にて第 6 回となり毎年開催することにより大変意義深い事業。まったくヨットを知らない一般の方々の参加によって普及し、セーリング人口の増加に貢献する。また親子で参加するための「チャイルドルーム」設置、体験講習会の内容もジュニア、中高年層に適した内容でセーリング体験を実施する。なお、今年度の新しい企画としてウィンドサーフィンの一般普及に向け準備する。
- (2) リピーターの対処について万全を計る。

時期 平成 18 年 7 月中旬

講師 30 名

スタッフ 10 名

参加者 約 100 名

使用艇 ヤマハ 30 フィート、クルーザー

2. 「チャイルドルーム」

- (1) 18 年度兵庫国体にて実施。
秋田リハーサル大会に設置。
 - (2) 全国のヨットクラブのクラブレース、艇種別レース、県連関連レース、ファミリーレース等に、普及、指導にあたり実施実現に努める。
 - (3) 他のスポーツ団体にも啓蒙し、働きかける。
3. 女子種目を実施するセーリング競技大会の実行委員会と連携をとり、女性役員がイニシアティブ持つ大会運営を試み、委員を派遣することを積極的に協力する。

4. 対外活動

- (1) JOC 関連の女性対象イベント、セミナー、並びにトータルオリンピックレディーズ会等に、積極的に参加する。
 - (2) 2006 年 5 月 11 日～14 日まで熊本市にて開催される、「2006 世界女性スポーツ会議くまもと」に、委員長及び委員を派遣し、女性スポーツの向上、並びに世界や JSAF における女性セーラー及び女性役員の普及、増加に努め、更にレディース委員会発案の「チャイルドルーム」設置に関する報告書を提出し、アピールする。
5. 国際委員会との連携により I S A F ウィメンズコミッテイより迅速な情報を得、女性役員のあり方、継続性など、又出来得るならば現地に委員を派遣し、調査を行う。

又アジアにおける女性セーラー及び役員の普及、指導を日本がイニシアティブをもって行動する。

6. 各種イベントを委員会にて企画、発案しJ S A Fに貢献する。

医事科学委員会（委員長：上原一之）

1. アンチドーピングに関する事項

ドーピング検査にドーピングコントロールオフィサー（D C O）を派遣する。

J A D A 認定D C Oの取得をはかる。

アンチドーピング講習会へ講師を派遣する。

2. 競技会における救護に関する事項

医師を派遣する。

3. 安全普及活動に関する事項

講習会へ講師を派遣する。

4. 海外派遣選手に対する医学的指導、医師帯同に関する事項

個別相談の受け付けを行う。

5. 公認スポーツドクター、公認トレーナーに関する事項

体協講習会へスポーツドクター、トレーナーを派遣する。

6. オリンピック強化および競技力向上のため関係委員会と共同で事業を実施する

（1）身体成長期のジュニア・ユースに対して以下のサポートを実施する。

ア．医科学サポート

イ．フィットネスサポート

ウ．トレーニングサポート

エ．栄養サポート

（2）アンチドーピング活動

有望選手発掘事業および地域指導者講習会時にアンチドーピング啓発活動を実施する。

外洋統括委員会（委員長：古川保夫）

平成17年12月、J S A F 外洋の健全なる発展と活性化をはかるため、従来の外洋統括委員会を改組、人心一新を図り、新たなる外洋統括委員会が発足した。組織の骨格はJ S A F 外洋系選出理事6名を副委員長に、会員登録数上位2つの外洋加盟団体長を顧問に据え、さらに外洋の各専門分野のオーソリティーを適材適所に配した12の専門委員会とした。平成18年1月に委員会の初会合を開催し、外洋統括委員会綱領のもと「外洋会員・セーラーのために」連帯し前進を図ることを確認した。今後月1回の委員会開催を原則に具体的活動を展開する。

外洋計測・技術委員会（委員長：林 賢之輔）

- 1．外洋艇の計測・ハンディキャップシステムの環境整備
- 2．各加盟団体および特別加盟団体の計測・技術関係者への専門情報伝達・啓発
- 3．計測関連団体との融合と情報交換、相互理解の促進
- 4．各メジャラーの技術向上のための支援活動
- 5．I S Oが策定中の規格に対する検討（J C IおよびJ I S協会と共同）

外洋安全・通信委員会（委員長：浪川 宏）

- 1．外洋安全意識の周知徹底を図るための諸活動の実施
- 2．外洋安全トレーニング実施の啓発
- 3．外洋通信設備の環境整備と研究活動
- 4．会員の搭載通信システムに対する意識調査
- 5．監督諸官庁との情報交換と各種の協議折衝

ORC委員会（小林 昇）

- 1．英国ORC本部とのコミュニケーション
- 2．国際ORC情報の収集と会員への伝達
- 3．当該国内ハンディキャップシステムの動向調査
- 4．上部団体I S A Fの動向調査
- 5．ORCルールの指導・啓発

外洋財務・会計委員会（委員長：鈴木保夫）

- 1．各委員会活動の予算策定と運用管理
- 2．J S A F本部との会計関連業務の調整・折衝

外洋法制委員会（委員長：渡辺康夫）

- 1．J C I（日本小型船舶検査機構）との定期的会合の実施
- 2．外洋関係法令の研究と会員への情報提供
- 3．J S A F環境キャンペーンへの協力と支援
- 4．廃船リサイクルの対応と意識啓発活動
- 5．小型船舶備品に対する会員の意識調査

外洋組織・構造改革委員会（委員長：児玉萬平）

- 1．外洋団体およびクラブの融合を図るための諸施策の立案
- 2．上記の活動実態の調査・分析
- 3．諸登録業務・手続き問題の改善提案

外洋ルール委員会（委員長：大村雅一）

- 1．現行国際ルールの周知徹底活動
- 2．会員へのルール指導・教育・P R
- 3．ルール担当者の育成

外洋公式レース委員会（委員長：稲葉文則）

- 1．J S A F主催・共同主催レースの運用規定の策定
- 2．チャンピオンシップレースルール策定委員会の設置・監督

外洋海事思想普及委員会（委員長：都築勝利）

- 1．諸団体・諸クラブへの海事思想普及と啓発活動
- 2．外洋活動活性化のための諸施策のプランニング
- 3．レース艇、クルージング艇の融合を図るための各種イベントの企画・実施
- 4．会員増強策の企画・立案

外洋新規事業委員会（委員長：平賀 威）

- 1．会員への各種サービス事業・イベントの企画・立案
- 2．各種販売促進活動の展開・実施
- 3．レース事業促進のための支援活動
- 4．会員の意識向上促進のための頒布物品制作

外洋国際化委員会（委員長：鈴木一行）

- 1．外洋ヨットに関する世界情報の収集と提供
- 2．諸外国セーラーとの友好親善を図る諸活動の研究
- 3．海外有力外洋団体との情報交換
- 4．海外レース参加艇への情報支援

外洋総務・広報委員会（委員長：浅野英武）

- 1．外洋統括委員会活動全般に関する諸コーディネイトとプロデュース活動
- 2．J S A F 執行部との各種調整作業
- 3．各委員会活動に対する支援
- 4．会員に対する諸広報活動

< 特別委員会 >

オリンピック委員会（委員長：河野博文）

オリンピック特別委員会（以下オリ特委と称す）は、北京五輪でのメダル獲得、複数種目の入賞を達成目標に、五輪種目の艇種別候補選手の競技力向上を図るために策定した重点方針に基づき事業を実施します。

オリ特委は、選手を含め相互の努力によって目標達成ができる組織体制と、JSAFゴールドプランに基づき世界の上位で戦える日本セーリング界の構築が大きな目標でありま

す。

．重点方針

- 1．北京五輪でのメダル獲得と複数種目の入賞
- 2．アジア大会（2006年12月カタール）のオリンピッククラス全種目金メダルの獲得
- 3．選手が強化活動をスムーズに行える環境の整備と体制造り
- 4．JOCゴールドプランに基づく次世代を担う選手の育成・強化
- 5．事業別予算・実績管理の徹底と効率的な資金計画・運用

．組織・役割

- 1．名 称：北京オリンピック特別委員会
- 2．組 織：
 - ・オリンピック特別委員にマネジメント委員会、強化事業委員会、指導・評価委員会の三委員会を設けます
- 3．オリンピック特別委員長および上記各委員会の委員長、副委員長から強化統括委員会を設置し、強化計画の立案などに当たります
- 4．経験、学識、専門的知見を持つ方にアドバイザーを委嘱する予定です
- 5．アテネオリンピックに向けて行なった募金活動を継続して行なう委員会を別途設けます
- 6．各委員会の主要業務は以下の通りです。委員会では随時役割や目標の達成度から見直しを行い、より良いシステムを構築していきます

<強化統括委員会>

強化統括委員会委員長はオリ特委員長が兼務、委員会構成は管下3委員会の委員長・副委員長とし、下記の強化事業全体の計画立案を行います

- 1．オリンピック代表選手のJSAF理事会への推薦
- 2．五輪キャンペーン全体事業計画の企画立案
 - *強化重点施策 *スケジュール *海外遠征 *強化合宿
 - *チーム、コーチ招聘 *NT基準・選考 等
- 3．北京五輪までの中長期予算計画の立案
- 4．JSAFゴールドプランの企画/実行/推進施策の立案
 - <「競技力向上委員会」との連携>
- 5．北京五輪会場（青島）の現地調査チームの設立

*気象 *ベースキャンプ地/宿舎 *ショップ・ボートヤード* 等

6. 選手の技術習得評価方法・基準の作成
7. JOC方針に合わせた調整、JSAF方針の検討
8. JISS(国立スポーツ科学センター)との連携
9. オリンピック強化アドバイザーとの窓口

<マネジメント委員会>

1. オリンピック特別会計の事業予算 策定および実績の管理/修正
2. JOC、スポーツ振興基金、toto等の情報収集 補助金の折衝、申請、予算運用管理
および事業報告書の作成
3. 海外遠征、国内合宿、ナショナルチーム選手、強化対象選手のデータ管理等
4. 強化事業全体マネジメント(計画、経費、物流、移動手段、その他)
5. 海外遠征における危機管理
6. 海外、国内情報の収集と提供
7. メディア対応と広報活動 - インターネット / H.P での告知、広報管理

<強化事業委員会>

1. 各コーチとの情報交換・連携・調整および意向確認
2. 強化合宿の実施
3. 海外選手・コーチ招聘事業、海外派遣事業の実施
4. ナショナルチーム選考レースの実施
5. 艇体、セール、ギア類のテストと評価(データ分析)

<指導・評価委員会>

1. オリンピック種目艇種別協会との情報交換・連携・調整および意向確認
2. オリ特ランキングシステムの実施
3. 艇種別協会との調整
4. 海外遠征成績の分析
5. 選手の技術レベル向上を図るコーチングテクニックの向上
 - (1) 他競技団体の方法論の情報収集
 - (2) 海外コーチの指導方法の研究
 - (3) コーチ学文献の情報収集

・平成18年度事業計画

平成18年度は重点方針に沿い、関係団体並びに各委員会と連携し、選手が強化活動をスムーズに行える環境作りの整備を第一に以下の事業に取り組めます。

1. 海外派遣事業
 - (1) JOC委託事業
 - (2) スポーツ振興基金重点強化助成事業
 - ア. オリンピック6種目世界選手権大会派遣

470級 9月 中国(日照)
レーザー級 9月 韓国(済州島)
レーザーラジアル級 7月 ロサンゼルス
49er級 6月 フランス
RS-X級 9月 イタリア
イングリグ級 6月 フランス

イ. アジア大会派遣(JOC直轄事業) 12月 カタール
ウ. ヨーロッパ遠征派遣(ISAFワールド^o含む) 4 - 7月 ヨーロッパ各国
エ. 海外強化合宿 5月 ヨーロッパ各国

8月 日照(470)

エ. オリンピックテストイベント派遣 8月 青島
ウ. セールメルボルン派遣 1月 オーストラリア

(3) スポーツ振興基金助成事業

ア. 470ジュニアワールド選手権大会派遣 7月 ドイツ
イ. ISAFワールドユース選手権大会派遣 7月 イギリス

*上記2事業は「競技力向上委員会」と連携した次世代を担う選手の育成・
強化事業

2. 国内強化事業

(1) JOC委託事業

(2) スポーツ振興基金重点強化助成事業

ア. ナショナルチーム強化合宿
オリンピック種目 2006年度ナショナルチーム強化合宿
イ. JISS(国立スポーツ科学センター)を利用したナショナルチームフィットネ
ス合宿
ウ. 海外優秀選手招聘合宿(リフト^o種目)
エ. 海外コーチ招聘合宿(レーザー^o-級)

* 補助金申請

海外派遣事業および国内強化事業についてJOCまたはスポーツ振興基金のどちらに補
助申請するかは今後、補助金支給団体との折衝によって決定します

(3) スポーツ振興くじ(toto)助成事業

ア. アンチドーピング推進(啓発・検査)事業
*本事業は「医事・科学委員会」と連携した事業
イ. 将来性を有する選手の発掘、育成・強化事業
*本事業は「競技力向上委員会」と連携した次世代を担う選手の育成・強化
事業

3. 自主計画事業

- (1) オリンピック会場(青島)継続事前調査事業 …… 青島ベースキャンプの確定
- (2) 青島気象データ収集・調査事業
- (2) 2 0 0 7 年ナショナルチーム選考会
- (3) 国内強化活動事業
- (4) 海外強化活動事業
- (5) 海外遠征支援業務
- (6) 管理関係業務

4 . その他

- (1) オリ特ホームページの充実
- (2) ランキングシステムの推進

国体委員会 (委員長：昇 隆夫)

- 1 . 第 6 1 回国民体育大会兵庫国体セーリング競技の準備を推進し、競技方法及び大会運営方法について検討を進め同大会を開催する。
- 2 . 秋田国体リハーサル大会の準備を推進し、大会開催について支援する。
- 3 . 第 6 2 回国民体育大会秋田国体セーリング競技の大会開催の準備を推進する。
- 4 . 大分、新潟、千葉、山口等の国体開催予定地の準備を支援する。
- 5 . 中央競技団体として国体開催予定地の視察及び指導・助言を行う。
- 6 . 少年男女種目に秋田国体から導入するセーリングスピリッツ級について支援する。
- 7 . 少年男女種目への中学生の参加を推進する。
- 8 . 日体協改革に合わせ国体及びリハーサル大会の簡素化を進める
- 9 . 各都道府県連盟に国体参加資格規定の周知を行う。
- 10 . 国体ウインドサーフィン級、セーリングスピリッツ級の普及活動を支援する。
- 11 . 国体艇種の大会開催について支援をする。
- 12 . 国民体育大会セーリング競技研修会を開催する。
- 13 . 国体ウインドサーフィン級の年度登録及び管理を行う。

アメリカズカップ委員会 (委員長：山崎達光)

2 0 0 7 年イタリアで行われる第 3 2 回アメリカズカップの状況に注目し、将来の挑戦に備える。エントリーチームは下記のとおりです。

	チーム	ナショナルティ	セーラー No
DEFENDER	ALINGHI	S U I	6 4 ・ 7 5
CHALLENGER	BMW ORACLE RACING	U S A	7 1 ・ 7 6
	CHALLENGE + 3 9	I T A	5 9
	T E A M S H O S H O L O Z A	R S A	8 3
	E M I R A T E S T E A M N Z L	N Z L	8 1 ・ 8 2

LUNA ROSSA CHALLENGE	ITA	74・80
K - CHALLENGE	FRA	57・60
VICTORY CHALLENGE	SWE	63・73
DESAFIO ESPANOL 2007	ESP	65・67
MASCALZONE LATINO-CAPITALIA	ITA	66・77
UNITED INTERNET	GER	
CHINA TEAM	CHI	69

<特命チーム>

普及委員会（委員長：水谷益彦）

日本財団助成事業である

- 1、ファミリーレース
- 2、ジュニア・障害者・レディスセーリング体験
- 3、教職員指導者養成講習会の3事業を各加盟団体に委託実施し、セーリングの普及を図る。

ファミリーレース	8箇所
ジュニアセーリング体験	3箇所
障害者セーリング体験	3箇所
レディスセーリング体験	1箇所
教職員指導者養成講習会	2箇所
合計	17箇所

関係組織協力委員会（委員長：大庭秀夫）

マスコミやメディアを使いヨット競技の理解と普及をできるように心掛ける。色々な角度からヨットの普及を考え、ヨットやヨットレースの楽しさを伝えてヨットがメジャーになることを考え、そのことにより JSAF がパワーアップしてより良い事業が行なえる。

- 1．各委員会活動への会長及び副会長の参加。
- 2．クルーザーレースの協力方法の検討。
- 3．ウィンドサーフィン大会の協力方法。
- 4．前年度までに関係した大会及び団体への更なる協力方法の構築。
- 5．各県連、クラブ等の行事への参加協力。

IT対策委員会（委員長：前田彰一）

平成17年度から適用が開始された JSAF「メンバー登録および管理システム」の更なる活用を目指す。加盟団体のメンバー登録管理担当者、総務委員会・ルール委員会・レース委員会などと協力して事務処理の効率化をはかるべく問題点を整理し、メンバー登録およ

び管理システムを改良する。また、将来のデジタル社会の到来を踏まえ、インターネットを利用した会員とのコミュニケーションをはかり、JSAF 活動の活性化を検討する。

会員増強特命チーム（委員長：伊藤宏）

1. 新規会員紹介キャンペーンの実施

平成17年度と同様、新規会員紹介キャンペーンを実施する。

期間 平成19年2月15日～平成19年3月31日

対象 一般会員（ただし学生会員は除く）

内容 新規会員紹介者に、キャンペーングッズをプレゼントする。

2. 都道府県連対象の調査

都道府県連の会員増強対策を調査し、JSAF としての取り組みを再考する。

B&G 海洋センター支援チーム（委員長：占部雄三）

B & G 海洋センター支援チームは平成17年度に発足した委員会で日本セーリング連盟・B & G 財団・日本OP協会が協力してB & G 海洋センターの活性化を主目的とした委員会であります。初年度は10月8日に茨城県玉造海洋センター・15日に愛媛県大三島海洋センター・29日に沖縄本部海洋センターの3箇所の海洋センターを対象に、各県のセーリング連盟が協力してOP ヨット体験事業を試験的に実施しました。

実施内容

B & G 海洋センターの室内プールでプールサイドに7台の送風機で風を送り、小中学生をOPに乗せた。施設と機材はB & G 財団・講師はJ S A F が小松講師を派遣・送風機と活動費はOP協会が負担（文部科学省の夢子供基金を活用）して実施した。17年度実施の結果は非常に好評だったことで18年度は10箇所で実施することになり、3月にB & G 財団が選定する10海洋センターを対象に17年度と同様の内容で実施する予定になっています。

当委員会は3月に実施場所決定後 4月に行動計画の策定
8月に中間検証
11月に最終検証と次年度の策定

以上3回、会議を予定しています。

出席者はJ S A F 占部・小松

OP協会 国見他1名

B G財団 細井次長他1名 計6名 の予定。